

令和5年酒井大史市長就任記者会見記録

日時・場所	令和5年9月8日(金)午前 11 時～12 時 10 分	101 会議室
-------	------------------------------	---------

酒井市長挨拶

第 23 代、立川市長に就任をいたしました酒井大史でございます。

どうぞこれから 4 年間、記者の皆様方ともしっかりと広報活動にも励んでいきたいと思っております。

またカメラも入っておりますので視聴者の皆さん方には、立川市政の運営を司らせていただきますのでどうぞよろしく願いいたしたいと思っております。

大雨への対応

本日まさに嵐の中で就任をすることになりました。今日私の朝一番の大仕事は、初登庁での第一声をさせていただいた後、担当の防災課長にお越しいただき、この台風が 12 時近辺が大変雨が強くなっていくということでございますので、念のため避難所を早めに開設する。万が一何事もなくればそれはそれで良かったということですが、警報等が発令をされた後ではなかなか避難をしにくい。そういった方もいらっしゃると思っておりますので、その部分については、迅速な対応をしていきたい。ということで、担当の課長にはご尽力をいただいて、10 時半に開設をさせていただきました。このまま何事もなく、誰も訪れることなく、無事にこの避難所を閉じさせていただければと考えております。

職員への訓示

今日、市の職員の皆様方にもこの記者会見の前に、部課長の前でお話をいたしました。

繰り返しになりますが、私は立川の新しい市政は市民に寄り添う優しい市政、そして優しい社会環境がこの立川市にあふれる、そういう市政を作っていきたい。

このことを選挙戦の中で申し上げ、ご支援をいただき、今この場所に立っております。そういった意味でも、やはり市の職員の皆さんに私の思いを共有していただきたい。そういった思いも込め、そして同時に私は過去市議会議員を二期、7 年間務めた経験がございますが、それははるか遠い昔の話で、旧庁舎の時代でございます。

この新庁舎で仕事をするのは初めてでございますので、まず冒頭セレモニーをする前に、新人でございますので、まずは礼に始まり礼に終わるということがやはり基本であろうと市の職員の通勤時間帯に合わせて、市の皆さんにご挨拶をさせていただくところから始めさせていただきます。

市の職員の皆さんは、私の市政運営のパートナーでございますので、私の姿勢をしっかりと示していく、伴走者であり、あるいはときには私が前面に立って市の職員の皆さんがお手本としていただけるような市長になっていきたく思っております。

その意味でも、市職員の皆さんには就任にあたってのご挨拶で申し上げましたけれども、ぜひとも、部課長さんだけではなく係長さんやあるいは一般職員の皆さんの中でも市民のために、これは役に立つんだというような新しい気づきや、あるいは思い付き等々があったら、遠慮なく市長に言ってきてほしいと風通しの良い市役所にしていきたい。

そして、市民の皆さん、この役所にいらっしゃる多くの市民の皆さんは、何らかの形でその人生を背負っていると思います。

喜び、これは結婚式、婚姻届を出しに来るときや、あるいは子供の出生届を出すとき。そういった喜びには、一緒に喜んであげられるような、市役所であって欲しい。悲しみ、これは自分の大切な人がお亡くなりになった、あるいは病気等になった、犯罪の被害にあった、そういった方にはしっかりと寄り添えるような、そういった市の職員であって欲しい。さらには、多くの方は何かしらのお困り事を抱えて、この役所にいらっしゃると思います。そういった状況の市民の皆さんにこれは100%ということとはなかなか、どの世界でも難しいかもしれませんが、多くの市民の皆さんが、立川市に相談しに行って、その問題が全てではないけれども、解決が図れた。帰るときには少し気持ちが楽になって帰っていただけるような、市役所の体制を構築して欲しいと、そういった環境をぜひとも作り上げていきたいというお話を申し上げました。

その一方で市役所には様々なお客様もいらっしゃいます。

そういったお客様の中で、市の職員だけではなかなか対応が困難だという部分については、これについても、嫌なことも私に言って欲しい。私が最終責任者でございますので、市の職員の中で、市の職員ではなかなか対応がしきれない、そういった問題については、私がしっかりと対応をさせていただくことも、当然あるということで、そういった部分についても、市の職員の皆さんには困ったときには、頼りにしてくれというそういったお話もさせていただきました。立川市の職員の、まずはいらっしゃいませから始まりありがとうございました。最後には市の職員がありがたいと言ってくれるような市役所に4年間かけて作り上げていきたいというふうに思っております。

所信表明・公約

その上で、これからいよいよ私の所信表明、そしてその後を並行しながら来年度の予算編成

に向かってまいります。具体的な個別の細かい問題については、またご質問等があればお答えをしていきたいと思っております。市の担当者には、既に来年度の予算においては、私が公約の一つに掲げている小学校給食の無償化、これは一時の話ではなくて恒久的に無償化をすると、これについては来年度から実施をするということは、至上命題だということをお伝えしてありますので、必ず実現に繋げてまいりたいと思っております。

将来的に国や東京都が支援をしていただけるということが、本来望ましいし良いことですので、そういった段階においては中学校にも、これを拡大していければというふうに思っております。国や東京都が担っていただけるのであれば、その予算、小学校で約4億数千万円という予算ですけれども、新たな予算にこれを配分することができますので、その部分については、市長会等を通じて国や、また東京都にも要請をしていきたいと思っております。

まずは隗より始めよと自分自身のこのまちで、小学校給食の無償化について取り組んでいきたいと思っております。

また、まだ報道ベースには上がっていないことだと思いますけれども、立川市においてはこの9月から新しい調理場が開設をし、中学校給食がスタートをいたしました。

この中学校給食と清掃工場の移転完了については、これは前清水市政の大きな功績であると私は考えております。

しかしながら、この新調理場において一部食器等の洗浄が十分なされていなかったという、事案を耳にいたしております。この部分については、教育長、また担当の課長からこの後状況を御説明いただき、今後問題が発生しないように早期に改善策、原因の究明と、そしてそれに対する何故そのようなことが起こったのかという部分の方策を考え対応をしていきたいと考えております。

残余の政策についてはこれから優先順位をつけて、4年間の中で実現を完了するもの、端緒をつけるもの、また最終的には他の自治体あるいは関係機関との調整を要する事柄もあろうかと思っておりますので、その部分については、少しでも足がかりをつけて、将来の夢が開ける立川市政を実現していきたいと思っております。ぜひとも記者の皆様方には、立川市の新しい市政運営、市政経営にぜひともご注目をいただき、皆様方が記事にしていだけるような、そういった情報発信を積極的に行っていきたいと考えておりますので、どうか立川市にご注目をいただきますように、改めて皆様をお願いを申し上げまして、冒頭の酒井大史の第23代立川市長就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。どうぞこれから立川市よろしくお願ひいたします。

質疑応答

東京新聞・岡本記者

3点伺います。

一点目が、少子高齢化についてです。

市長選でも少子高齢化はテーマの一つになりましたけれども、現在既に立川市でも、第4次総合計画の想定よりも早いスピードで少子高齢化が進んでいますし、いずれ人口減少の時代もやってくるとみられます。

そういう状況において今後、立川市において、公共施設だとか、いろんな分野あると思いますが、これによってどういう弊害、問題点が出てくるのか、どういうところに対応しなければならないと、市長として考えていらっしゃるかが一点目です。

2点目の、先ほど小学校の給食の無償化の話も出ましたけれども、多摩格差というのが、以前から言われています。小池知事も多摩格差をなくすと言って、取り組んでおりますけれども、現状この多摩格差がどのような状況にあるのか、どういう部分で問題点が残っているのか広がっているのか、その認識について、2点目お願いします。

次に3点目、多くて申し訳ありません。PFASの話についてです。これまで選挙でも独自調査をする考えであったり、それから米軍横田基地の立ち入りについても、一部触れられていたと思います。

このPFASについて、独自調査と立ち入り調査の要請については、どのようなスケジュール感でどうやって進めていくのか、改めて市長のお考えをお聞かせください。

市長・回答

最初にご質問いただきました、人口減少そして少子高齢社会への対応ですが、国も異次元、次元の異なる少子化対策ということをおっしゃっておりますけれども、現状ではなかなか具体的な内容というものがまだ見えてこない状況にあるかと思えます。

やはり立川市という単体で考えるのであるならば、立川市が子供を産み育てやすい、いい環境を構築していくことが急務の課題であろうと思っております。そのことが冒頭申し上げました小学校給食の無償化、これはお金に色はついておりませんので、家計が苦しいという、ご家庭においてはその給食費の無償化は、大体月4,000円から5,000円ぐらいの間になると思いますが、その部分のご負担が減ることですので、家計を苦しめる状況を改善ができると思えます。また、家計が苦しくないけれども塾代やいろんな教育費にお金がかかる。私も今小学生と保育園児の子育て中でございますが、教育にはお金がかかるなという

ことを実感いたしております。

教育費・給食費という切り口で保護者の方が負担をしなくても良い、そういった環境を作っていくことで、別の塾代に使っていただいてもよろしいですし、そういった部分での子育て支援策の一つとして申し上げました。

この他にも、保育の送迎ステーションまさに 2 馬力で働いている、そういった方のどちらかがキャリアを諦めなくても良い、そういった子育ての支援策にも取り組んでいきたいと考えております。

これは 4 年前の市長選挙のときにも私は申し上げましたけれども、そもそも子供を欲しているにも関わらず、なかなか子供を授かることができない、そういった方々に対する不妊治療の問題についても、これは自民党政権菅政権で保険適用が認められて、これについては私と立場が異なる政権ではございますけれども、この部分についてはすごいなど、率直に評価をいたします。

しかしながら保険適用ではなかなかカバーがしきれない、特定不妊治療等の課題もございます。この部分については近隣市でも既に追加の横出し積み増しの支援策を行っている自治体もございます。そういった自治体の成功例、あるいは失敗例というものもしっかりと見ながら、これもできれば来年度から実現をしていきたいと思っております。

一方で高齢社会についてでございますけれども、ここで代表取締役はすでに辞任をいたしましたけれども、私は訪問介護事業所の経営に携わる機会を得ました。

この介護人材の不足が、叫ばれて久しいわけですがけれども、国も何ら対策をしていないわけではなくて、処遇改善や特定処遇改善、ベースアップ加算と様々な制度は取り入れております。しかしながら、事業所を運営してみますと、それぞれの処遇改善等の手続き、次から次へと 2 階建て 3 階建て 4 階建てとなってくると、その部分だけでも事業所はかなり疲弊をする。その書類を書くことを私自身が経験をいたしましたので感じております。

ただし、これについては、国の制度でございますので、直ちに变えることはできないということもありますし、また介護人材が急に集まるという状況には無いと思っておりますので、これも選挙期間中に申し上げてまいりましたけれども、立川市として何に取り組もうかと考えたときには、要介護状態になる日を 1 日でも先に先延ばしをしていくための介護予防に重点的に政策を集中させていく必要があるのではないかと考えております。

その部分については、いわゆるフレイルの予防の問題、身体的虚弱、精神的虚弱、社会的虚弱の三つの視点から、例えば身体的な虚弱の部分については、なるべく外に出て運動等を通じて足腰を強くしていただくということであれば、これまでも立川市が取り組んできたウォーキングポイントという、スポーツと、ちょっと楽しみを持てるポイント制度とあわせる。今までの立川市においては期間限定ということであったわけですがけれども、こういうもの

を少し通年化していく。そのことによって楽しみながらポイントを貯めながら健康で長寿の環境を作っていくということも必要でしょう。あるいは精神の虚弱いわゆる認知症の予防です。またこれは社会的な虚弱の孤食の問題にも繋がってくると思うわけですが、この精神的な虚弱の問題については、一つの端緒となってしまうのが聞こえの問題。耳が聞こえなくなって難聴になるとちょっと話をするのが億劫になって、なかなか外に出ていけないという問題もございますので、補聴器についての補助の仕方についても、考えていく必要があると思っております。

ただ私の市政における基本的な考え方は、ただ補助金出したからいいでしょと、いう形にはしたくないと思っています。補助金を出す以上は、それを使っていただく方が、例えばその補聴器についてもタンスの肥やしになるようなことがないように、その方にしっかりと合ったマッチングまで考えた対応を制度設計していきたいと思っております。これはいくつかの子供施策高齢化に向けたご高齢者のいわゆるアクティブシニアの皆さんが、街の中をこう闊歩できるような、そういった政策をいくつか市民の皆さん方にご提供ができればと思っております。

次に、多摩格差の問題でございますが、繰り返しになりますが小学校給食の問題について、私も都議会議員として8月27日まで活動して参りました。

東京都議会の中でも私が所属をしていた会派の要望として、小中学校の給食の無償化というものを東京都政に対して要望いたしておりましたが、東京都側の回答は、これは国と自治体が考えることだというお話でございましたので、仕方なく立川市でまずは先行実施をするということで小学校給食無償化というものを提案させていただいております。

また、今後の課題の一つは多摩格差の中での財政力の格差ですね、一番大きなものは。その中で一つの懸念材料はこの9月からですが、10月から東京都の旗振りで高校生まで18歳までの医療費の無償化というものが導入をされた。立川市でも既に議案が通り、私の息子宛にもこの制度を使うか否かという書類が届いておまして、既に申込書は提出をいたしておりますけれども、これについては確か5年間については、東京都が10分の10で費用をして負担をしていただけるということです。これは市長会の中でも5年から先、はどうなるんだろうと本当に東京都がずっと見てくれるのかという心配の声が上がっております。23区内と比べてこの多摩地域においては財政的には大変厳しい状況にある自治体もある中で東京都の補助が減額をされたり、あるいは無くなってしまうということになった時に、その事業をやめるのかというところで葛藤があると思います。

このような部分についてもやはりハード面の格差の問題だけではなく、ソフト面での格差解消に向けて、東京都の補助事業、あるいは国の補助事業等の問題についても取り組んでいきたいと考えております。そういった意味での多摩格差の問題、この立川市に限って言えば商業的、あるいは交通の要衝という面では、比較的にぎわいのあるまちでありますけれども、

その裏で住んでいる市民の皆さんの暮らしを支えていくという面においては、なかなか 23 区と比べて十分と言えるような施策が展開できないような財政状況にもあると思いますので、そういった部分については極力、私の施策についても、まずは立川市であるけれども、国や東京都で事業展開をしていただければという思いも持って提案をさせていただいております。

最後に PFAS の問題ですが、この問題については、まず実態の把握をしていくことが必要であらうと思っております。それがゆえに立川市としての独自の調査ということを申し上げました。これは既に国分寺市でこの PFAS の井戸地下水等の汚染の問題については注目をされて、国分寺市においては既に令和 2 年度、従来の環境調査の中に PFAS の項目を導入をしているということでございます。国分寺市の事例をしっかりと参考にさせていただき、早急に立川市においても、まずは実態の調査に取り組んでいけるように指示をしていきたいと思っております。その上で実際に人への影響の部分でございますけど、今 50ng/L ということが暫定値として示されております。この基準自体については、当然国がしっかりとした知見、エビデンスに基づいて基準設定をしていただかなくてはなりません。そのことを求めていきたいと思っております。そして基準値の再設定がされれば、東京都水道局、飲み水を配水している側が対応を行うものと考えております。

今浄水器等の設置を求める声も当然私も聞いておりますけれども、今の浄水器が活性炭で PFAS を吸着ができるという一部の知見もありますけれども、そのことが本当に有効なのか、ということをしつかりと検討した上で、国や、あるいは東京都がそういったことを行わないということであるならば、立川市で将来的には対応を考えていかななくてはならないと思っております。最後に横田基地の立ち入りについてでございますけれども、私自身は東京都と近隣市と連携し、防衛省なりに求めていきたいと思っております。

当然、日米地位協定の問題等々、壁は高くそして厚いものと考えておりますが、立川市単独で横田基地、在日米軍並びに国に対して単独で要請するということは考えておりません。そういったことをすると多少目立つかもしれませんが、実質的な効果といったものはないと思っておりますので、この部分についてはスタンドプレーをするということではなくて、近隣市で問題意識を同じくしている市とあるいは東京都と連携をして、実質的な効果が得られるような方策を考えて取り組みを進めていきたいと考えております。

以上です。

東京新聞・松島記者

失礼します同じく東京新聞の松島と申しますよろしく申し上げます。

今の PFAS の話に関して、まず一点お伺いしたいんですけども、今おっしゃられましたように日米地位協定の壁があるとおっしゃられていまして、日米地位協定では米軍横田基地に関しては排他的使用权というものが設定されていますので、自治体と関係機関は立ち入ることが基本的にできない。どのような法的根拠に基づいて、近隣自治体と連携して、立ち入り調査を要請していくのでしょうか。

市長回答

おっしゃる通りでございまして日米地位協定っていうのはある意味、本当に日本人の一人としては大変屈辱的な協定であると思っております。日本の国であってもそこになかなか立ち入ることができない。これは沖縄等のいろんな事件が発生したときにも皆さん感じていることだろうと思います。この点については日米地位協定の運用や見直しの問題についてこれは政府において検討していただきたいと思っておりますけれども、そういったこの排他的使用权があるという大きな壁がありますので、立川市単独ではなかなか難しいだろうと。その具体的な方策についても一足飛びにできるということではありません。であるからこそ東京都や近隣市と連携をして方策どうやったら行っていけるのか、という部分について検討をし、そして対応していきたいと考えております。

東京新聞・松島記者

例えば環境補足協定で通報があった上で立ち入り調査を要請する、または、1973 年日米合同委員会の合意で疑わしいと信じるべき事象があった場合に、立ち入り調査を要請できるといったように色々な手段があると思うが、こういったルートを使て調査を要請するかといったこともこれから検討するのか。

市長回答

さすが東京新聞さんの知見がおありだ。そういうことを教えていただきましてありがとうございます。そういったことも踏まえて今後一番基準値として高いものが出ている国分寺市の市長さんとなるべく早い時期に面会をして相談をしていきたいと思っております。ぜひ、記者の皆さん方も私が全てを熟知しているということでもございませぬので、ぜひともいろんな各地で取材活動を行い、様々な方策、また真正面から突撃してもなかなか難しいことでも、横からいくと意外と入れたりということも世の中にありますので、ぜひとも記者の皆様方には私からの一方的な話だけではなくて、記者の皆様方からもこういうふうに行ったら市長いいんじゃないですかというようなお話もいただくと、皆様方の取材の記事にも繋がっていくものと思っておりますので、ぜひともご協力をお願いしたいと思っております。

東京新聞・松島記者

ごめんなさいちょっと関連なんですけども、今国分寺市っていうふうに個別に出されてたと思うんですけども、国分寺市は米軍横田基地周辺の連絡協議会の 6 市町に入っていないと思うんですね。

なので国分寺市に相談するというふうになると、都と 6 市町の連絡協議会の枠組みで、あの地域の立ち入り調査を要請していくっていう話になるわけではなく、連絡協議会って割と騒音とかに対しての組織だったりするので、いわゆるそういった枠組みではなく、新たな枠組みでという形になるのか。また、それとも市長会って話になるのか、枠組みにとらわれずとりあえず相談していきたいっていうのは、何かちょっとそこら辺どうなのかっていうことを伺いたい。

市長回答

意味合いとしては一時的にはこの横田基地の周辺の 6 市町という 5 市 1 町ですか、と東京都という話になってくると思うんですが、こと PFAS の問題については大体西の方から東の方へと地下水脈が流れているということですので、それぞれの自治体において多分感じ方の温度差っていうのは違うと思うんですね。

通常の騒音の問題等々隣でありますからその部分を当然、基礎とはいたしますけれどもそこにとどまることなく、この地下水脈の中で影響を被るであろう、お隣だということで国分寺市とお互いに PFAS の濃度が高いということで、市の名前を挙げさせていただきましたけれども、それ以外にも東京都内で、この地下水脈等についてご心配になられている方々もいらっしゃると思いますので、市長会などにおいてこの問題について問題提起をしていきたいと思っています。

東京新聞・松島記者

そういった自治体と相談していくっていうふうになると思うんですけども、地下水というブラックボックスみたいな面があって、実際に横田基地がそれと関係してるのかっていうことを証明しづらいので立川市はまたがってるので、ほぼほぼ関連性っていうのが割と蓋然性が高いのかなと思うんですけども、国分寺市とか離れていけばいくほどその関連性ってどうなのかという疑問符が上がってくると思うんですけども、そういった疑問符が上がっている中でどうやって連携していくのか、疑問符をどう突破していくのかっていうところをちょっと教えていただいてもよろしいでしょうか

市長回答

今日就任したばかりでございますので、まだ近隣市とも市長としてのお話はしておりませんので、それぞれの自治体の温度差っていうものもまだわからないわけですよ。ですから、その部分についてはそれぞれの自治体のお考えというものを聞いてみないとわからない。ですけれども、やはりこれは本当に4年間、防衛省が知っていたけれども公表していなかったということでございますので、ある意味この日米の壁だけではなくて国との、そういった情報の問題等もあると思いますので、そういった面についてはやはりそれぞれの近隣市の市長さんともお話をさせていただいて、温度感も探りながら、温度が低いようであれば温度を上げてもらえないかというような、当然お願いベースの話も、含まれてくると思います。いずれにしても最初にご質問あった通り、立川市だけがいきりたってね、何か調査させようと言っても本当に横田基地だけの問題ではない可能性もありますし、私も都議会の中でこの問題のヒアリング等を行いましたけど、東京都は環境局が4年サイクルで井戸の調査をして、立川市内については四つのブロックに分けて、4年で一周ということですが、立川市は本当に継続調査の対象になっている井戸もあって大変高濃度が出てるということで、その一方で、横田基地よりも西にある市のところでも高いところがあるということなので全てが横田基地の問題ではとも言い切れない。

元々大阪の方については、一部企業の工場からっていうこともございますので、その部分については横田基地の調査というものをすれば全て解決するという話でもないと思いますので、それは最初の話に戻りますけれども、まず立川市の現状の把握をすること、これがまず最初に行うこと、その上で国にやはり働きかけをし、国への働きかけの部分で周りの市と共同して環境基準の設定についてもこれは変えていただいた方が良いのではないかと、他市の市長の考えが一致すればそういう要請もしていきたいし、その延長線上で、その原因、汚染源と思われる横田基地の問題についても一緒に連携をしてやっていければやっていきたい。その上で最終的には市民の皆さんの口に入るものについてしっかりと対応していけるように東京都とも当然連携をしていかななくてはならない。これは都営水道に一元化をされていない、そういった実態もございますので、それぞれの市によって対応の仕方というものは違ってくると思いますけれども、立川市においては都営水道ということがございますので、そのもとでやってもらうというのが一番有効で、幅広いあまねく浄水器をつけたお宅だけの話ではなくて、元をしっかりとさせていただくことが、より多くの市民の健康を守っていくということに繋がるという思いで先ほどのような回答をさせていただきました。

J:COM 奥林記者

JCOM 東京多摩局の奥林と申しますよろしくお願ひします。政策コンセプトをホームページに挙げられて拝見させていただいたんですけども、その中でいくつか柱がある中で、全体にかかる形で市民の目線で市役所経営を極めるところを書かれています。

その中で、行政のDX化とか窓口行政手続きの見直しというところがあるんですけど、具体的にはどんなことを今考えられてるのか。

もう一つシティプロモーションですね。こちら立川市の住みたい街ランキングとか、かなり近年上位の常連になりつつありますけども、どういうふうに立川市をもっと対外的にプロモーションされていくのかっていうことをお伺いします。

よろしくお願いします。

市長回答

いい質問ですね。

私今回の市長選挙って50の政策を皆さんにご提案をいたしました。

当然、私にとっては実は50以外にもあるんですよ。切りのいい数としました。あとはYouTubeのライブ、YouTubeの動画配信という形で、なかなか紙面ではね、文字にしてしまうと大変記事が多くなってしまって、皆さん方の新聞と同じぐらいの分量になってしまうと、なかなか注目のあるところしか見てもらえないということになるかと思ひまして、50項目の全ての項目について、今おっしゃっていただいた動画で解説し、どういう思いでこの事業を私がやりたいと思っているのかということを含めて掲載させていただいております。そういったことを含めましても、私の一方的な思いで、これは私にとっては必要だと思ひつてます。動画をなかなか選挙前で作ることが大変だったものですから、本当はあの55歳なので、55歳にちなんで55まで増やそうかなというふうに思ひつたんですけど、どこかでこう切りをつけないといけませんので50になってます。実は選挙戦を通じて、お金が全く掛からなくて市民の皆さんが不安に思ひつていたことを解消できる施策も、この他に一つや二つ、ありまして、それはもうすぐに来年からやろうっていうふうに思ひつていることもあります。ただ、そうは申しましてもこの50の政策の中でも優先順位つけていかなないといけなないと思ひつているんですよ。

それはやはりこちら側としての予算という面での優先順位の付け方だけではなくて、私の50項目の政策のうち市民の皆さんが何を望んでるのかということで政策推し活キャンペーンというものを私の確認団体、「作る。新時代たちかわの会」のホームページ上等でご案内をさせていただいて。どうぞ50項目の中から5項目だけ選んで、回答してくださいというふうな投げかけをいたしました。ちょっとインタラクティブな、そういった政策作りとか政策の優先順位をつけたいなという思いでそういったことをしました。スマホでこうやってGoogleフォーム使ひつて作っただけですけど、意外と30代40代50代という年代の方からの回答率が高かったというのは私にとつても嬉しいなとその中で今おっしゃっていただいた小学校給食の要望は大変多いんです。でもそれよりも多いのが、行政のDX化、行政手続き、窓口対応の市民目線での徹底的な見直しということが実はトップなんです。であるからこそ、私はまずそこの部分に取り組んでいく必要があると考へ、就任時の最初の第一声においても、また先ほど、幹部職員の方への最初のご挨拶の中でも、まずは立川市の市役所

ていうのは最大のサービス産業なんだという意識を持っていただきたいと、市民の皆さんがいらっしゃったときは「いらっしゃいませ」とちゃんと対応して、最後には「また何かあったらお越してください」と言えるような市役所に変えていきたいと。最後に4年経ったときには市民の皆さんからありがとうと言ってもらえる。

これは私の選挙期間中に応援に来ていただいた、明石市の前市長の泉房穂さん。私もかつて都議会議員として視察に昨年を赴かせていただきました。そのときに、いろんな施設に市長への手紙みたいな形で、要請要望する目安箱みたいなものがあった、泉さんの話では、初めは市役所何やってんのかどうなんだとか何だとかってという批判のそういった投書が多かった。でもこれがずっと続けていって市の職員の意識を変えていって取り組んだ結果、何々課の何々さんには大変お世話になりましたとお礼の手紙がその中に入れられるようになった、まさにこういう市役所を4年間かけて作っていきたいと思っています。

ただ、しかめっ面でやってても、やはり市役所は明るくなくちゃいけないじゃないですか。笑顔で、これは皆さんにも笑顔で楽しく仕事をしましょうって。その上でいやなこともあるかも知れませんが。いやなことは私も一緒に市の職員にも寄り添いますよと、市長自らもちょっと空いてる時間において、ちょっとそこは窓口とか、あとは既に秘書課の方には市内全ての市民の側から見て、これは立川市の施設だよなあと思われる、そういった出先機関あるいは学習館とかそういったところの一覧表を作ってほしいとお話しております。時間がかかるかもしれませんが、市長自らが全ての立川市の窓口的な業務、いろんな手続きの受付をしているところを全て見て回りたいと思っています。その中で何か不都合があれば、変えていきたいと思っていますし、職員の皆さんと一緒にそこにお越しになってくれる市民の皆様方にはまずは「いらっしゃいませ」と、いうところから始めて行くことによって、まずこれは上からとにかくやれと言ったって、そう簡単にできるものではありませんので私自身の市民に対する姿勢というものを、市の職員にも感じ取ってもらって、一緒にやっていけるような環境を作り上げていきたいなと思っています。

次に広報・シティープロモーションについてなんですけど、これまでも立川市もいろんな広報をやっていると思うのですが、なかなかこうね、マスコミの皆さんにもご注目をいただけないという大変な残念な状況でございます。なかなか立川市というもので記事にしていだけることが少ないという面も、僕自身ちょっと感じてるんですよね。であるならば、やはり市長自らぜひともね、こういった形式ばった記者会見だけではなくて是非皆さんに取り上げていただけるような立川の魅力を、私自身も発信をしていきたいと思っています。私の夢としては、毎週一つぐらいはどこかの新聞社が立川市ではっていうことを記事に書いていただけるような情報提供をしていって立川ってなんかすごいねっていうふうにも思ってもらえるよう、最低限月1回ぐらいはね、そこら辺は皆さんがご興味関心のあるネタをいかに提供ができるかということだろうと思いますけれども、そのプロモーションの部分についてはこれは立川市がYouTubeやホームページ、広報等々でやってもなかなか限界

がございますので、そういった立川市の動画チャンネル等についても私の YouTube もなかなかチャンネル登録数は上がらないんですけど、政治ネタですから。そういった部分でも市長自らが少しね、出演者になって少し楽しく街の紹介をするような番組を作ってみたいなとかね、いろんなことを考えてるんですけど。ちょっと広報課とも、今日明日は休みですけど、近いうちに立川市の動画チャンネルで発信をするものはどういうもので、僕の動画チャンネルで発信するものはどういうふうにしようかという、ちょっと私個人的な Twitter や Facebook、YouTube の使い方とこれが市の広報活動を邪魔しちゃいけないので、まずは市の方を優先にしつつ、そこで足りない部分は私の個人的なもので発信をしながら、さらにはぜひここにお集まりのマスコミの皆さんにご協力をいただいて、どんどんネタの提供をさせていただければなど。そういったことで、立川の街を知っていただく広く皆さんのお力をお借りして、広報・シティプロモーションに取り組んでいきたいと思っています。

J:COM 奥林記者

我々も立川のシティプロモーションにどんどん協力していければと思いますのでぜひ今後ともよろしくお願ひします。

毎日新聞・野倉記者

毎日新聞の野倉と申しますよろしくお願ひします。三つ伺います。

一つ目は全ての窓口業務を見てまわりたいということですが、具体的にいつ頃からどういった規模で本当に出張所一つ一つとかどういったふうに見て回られるのか。

二つ目は、あの、議会对策について、この議会对策でどのように与党は、いわゆる与党の方の対策をやっていられるのかというのを教えてください。

三つ目は、ちょっとずれたところで恐縮なんですけども、立川市は多摩のリーディングシティだということを市長も含めて他の候補の方も言われていました。一応、客観的には多摩は 26 市のうち八王子市が中核市で人口も 58 万あります。立川市がリーディングシティという自治体としての根拠、多摩格差を解消するにあたって市長の手腕でどういったところをリードしていける自治体としての根拠、どういうふう形成したいかというところを教えてください。

市長回答

全ての窓口を見て回るためには、どのようなスパンでということですが、今ちょっと来週い

っぱいぐらいまではかなり市長公務をびっしり、秘書課長に入れていただいておりますのでほぼ缶詰になると思っております。空き時間等ではこの庁内をまず、うろちょろしたいと多分職員に嫌がられるかもしれませんが、ちょっとね休み時間等ではこの庁内を見ながら市民の方がいたら声かけていきたいなって思っております。その後議会対応に入って議会の定例会に入りますので、その定例会の間も極力空き時間を見つけてなるべく早い時期に年内には全て回りたいなっていうふうに思っています。

あともう一つの窓口だけではなくて、やはりまちを少し見て回りたいなど。相手方のご協力がなくてはいけないので、実現がいつになるかと思うんですけども、ゴミ収集、何社（8社）かに委託をしているわけですけども、このゴミ収集の状況についても、ちょっと時間のゆとりができたときに、私も邪魔しないから一緒に回らせてっていう形で、曜日収集日を変えて一緒に回ってみたいなど。立川のゴミの状況というのがどうなのかなっていうことを、捉えていきたいというふうに思っております。

窓口についてはなるべく早急に、またどっちかというよりは市長室こもってるというよりもうろちょろしたいんですよね。先日まだ市長就任前だったんですけども、朝街頭等で活動していた時に、立川市で委託をしている多分シルバー人材の方だと思うんですけど駅前等でゴミの清掃活動やっていたらの方がいらっしゃって、その方に、すいません市長予定者なんですけれども、ということで、ちょっとゴミの状況が、週末と平日はどうなんですかって、どういうゴミが多いんですかって、やっぱり吸殻が多いとか、あとはこうね、週末とかで人が出る時はゴミが多いんですっていう、話をされてましたので、ぜひともこの窓口的な業務だけではなくて、市がいろんなことを委託して、立川市の業務として行っているその現場でどういうことが起こっているのか、どういう思いでやられているのか、今の立川市のやり方というものが本当に有効なのかどうかということ、自分自身の目と足でしっかりと見ていきたいと思っております。最終的に全部完了するのはかなり時間かかるかもしれませんが、空き時間を使ってこれはやっていきたいと、なるべく早くやらないと、変えていくきっかけにもなりませんので、なるべく早くしていきたいというふうに思っております。

議会対策について特に与党という話なんですけども、これは二元代表制の地方自治の中でも市長と議会が別で選ばれておりますので本来であれば与党野党という関係はないものと思っております。しかしながら私の政策にご賛同いただいている市議の皆さんも今回の選挙戦を通じて大変多くいらっしゃいました。その方達をあえて与党と呼ぶのであるならば、そういった位置づけになるのかなというふうに思っております。しかしながら、私はそれだけで線引きをしようとは思っていません。私の政策、選挙ではそれぞれの立場があって、それぞれのご事情で選挙戦を戦ったということはあるかと思っておりますけれども、たとえば相手側の陣営に立っていた方でも本当は腹の中では酒井の政策の方がいいんだよなあというふうに思っている方がいらっしゃったらそれはぜひ、一緒にやろうよという形にしていきたいと思っております。その一方で、仮に与党と言われる方たちにも、僕自身はケースバイケースだと

思ってるんですね。その方の中でも、私の 50 項目の政策の中でも当然ね、その相手方によって 60%、自分と一致するから OK と。人によっては 80% OK だけど 20 違うからだからやだっていうね。選挙はそういうもんじゃないですか。どうなるかっていうのはこれ予算の問題でも一つでも気にいらぬものがあつたら、駄目っていう、僕はケースバイケースであつていいと思ってるんです。しかしながら、私としてはより多くの議会の皆さん、市民に別の選挙で選ばれている代表者の方々です。そういった方々に対してもしっかりとね、意見は聞いて議会という場ですけれども、意見は聞いていきたいし、また立川の市議会には聞いたところ反問権という権利が認められているということなので質問の内容によってはこちらから確認のために反問権を使わせていただく場面もこれまではなかったそうですけれども、議会で議員と首長の議論が活発に繰り返すようなね、記者の皆さんたちにとっても、市民の皆さんにとっても議会面白いねって思ってもらえるようなそういった反問権の行使というものも私の中では場合によってはしっかりと扱わせていただきたいなというふうに思っております。

最後に多摩のリーディングシティとしてということですが、これは私が言った言葉じゃないんですね。これまでの市政で、これちょっとある新聞社からたまたま時間があつたので、取材を受ける機会があつたときにお話を申し上げましたが、同じ質問されました。多摩のリーディングシティとしてどう考えているか、私が立川の市長として立川がリーディングシティだということを自分から発することはおこがましいと思っております。これは立川市が自分から立場がリーディングシティというのではなくて、周りの市から立川がリーディングシティだよって言うふうにしてもらうことが本来の筋であつて、私の口からは立川市がリーディングシティだということを現段階ではそのような市になつていても思いませんし、そのような言葉を使うこと自体がもうそもそも他の市に対して大変無礼極まりない言葉だというふうに私は思っています。

ただ地の利という面からすれば、多摩の要衝、交通の要衝であることはこれは間違いのない事実であります。当然八王子市さんと同様に立川市は交通の要衝です。先達たちのご尽力により市役所が立っているこの地も戦後米軍の基地であつた砂川闘争を通じて基地の拡張を防いでくれた、まさに砂川地域の方々のご尽力によって、立川のこの場所が米軍の基地ではなく自衛隊の基地になり、その後、昭和記念公園、広域防災基地留保地という 3 分割案を実現してくれた。その留保地の部分に、今これだけの商業施設や、あるいは官公庁が集積をしている。まさにこれは先達の皆様方のご努力と、そして英知の結集で、今のこの街が交通の要衝という形、あるいは商業の集積地という形で発展をしているということはこれは紛れもない事実であろうと思つています。これはやはり先達の皆様方のご苦勞に関しては本当に敬意を称したいと思つていますし、また一方で商業者の皆さんにとつても、それぞれの商業者の皆さんのそれぞれの思いの中でこれは当然経営という面を外してやつてらる方はいらつたらないと思つていますので、そういった意味では立川の街の中心部は発達をしている

と思いますけれども、私はそういったあの事業者の皆さんが自分自身でいろんなことを考えて進んでいくことを後からバックアップをしていけるようにしていきたいなど。市として考えるべきことは、これまで立川市においては産業振興計画なるものが策定をされておられません。観光計画であるとか農業振興計画というものがありますけれどもそういった部分について立川全体の産業というものをどういうふうに考えていくのかということは、やはり当事者や市民の皆さんとも議論をしながら立川市のビジョンというものを将来的には策定をしていく必要があると思っております。

私の切り口としては、駅前が発展をしております。しかしながら、そこに住む住民、市民、納税者、そして未来を担う子供たち、こういった人たちの横の繋がりやあるいは世代を繋ぐ縦の繋がり、こういった部分を大切にしてい暮らしている皆さんがこの立川市に満足をしてもらえる立川市で暮らしている立川市民だということを他の市民の皆さんにも自慢ができる。そういったまちになったときに初めて立川が三多摩の中でリーディングシティと言われるような街として確かな評価をされるものだと思っております。繰り返しになりますが市長自らがリーディングシティだということは、おこがましいことだと僕は思っています。

共同通信・塚本記者

共同通信の塚本と申します。他の市長・区長さんとの連携のことで伺いたいですけれども。選挙では政党色は出さず幅広く支持を求めたと思うんですけれども、近隣の武蔵野市長ですとか、その方々が立ち上げられたネットワークへの参加と今後何か連携や政治的な立場の関係で考えていることがあったらお聞かせください。

市長回答

いろいろとお誘いはいただいております。私自身の基本的な考え方は別にどこの政党だから何とかが、非自民勢力とかが自民党さんだって、別に全てが悪いわけではなくて、うまく行政運営をされているところもあるわけですし、そういった部分では私はまだ新米の市長でございますのでまずは立川市民の側を向いた市政運営に専念をしたいと思っております。そういった政治的な動きについても、一度か二度ぐらいは、何をやっているのかわからないと、お誘いはいただいているけれども、そこに自分自身として仲間になるかならないかっていうのは、よく活動とか市長、またそれに対する効果というものがどういうふうに表示されているのかということをしかりと自分自身の目で判断をさせていただいて、そういったグループがあるのであれば、そこが有効だと思えば参加をすることもあって、有効でなければ、それはお控えさせていただくということもあるでしょう。また最終日に武蔵

野市長は都議会議員の元同僚なんでちょっと応援来てよということやあるいは世田谷の区長さんもどちらかという、世田谷区長さんの方から応援に行くよっていうふうにありがたいお言葉をいただいたので、それはそういう気持ちをお持ちであるならば、お越しいただけるのであれば、これは嬉しいことですよということでお越しをいただいたということですので、それ以上でもそれ以下でもない。先方の思いは、それは先方に聞いていただいとということだと思います。

TOKYO MX・中島記者

TOKYO MX テレビの中島と申します。よろしく願いいたします。

小学校の給食費の無償化についてなんですけれども、来年度の実現を目指すというふうにおっしゃったんですが、ちょっと気の早い話なんですけれども中学校については何年後ぐらいとかっていうのをご自身でもしあれば、教えていただければなど。

市長回答

私もこれから予算の査定また決算についての資料、令和4年度の決算資料については、今日現在、まだ見ていないんです。ですからあの選挙戦に当たっては、コロナ禍の中でこの三、四年の立川市の財政状況をいろいろと研究させていただいたんですけれども、国や都からのいろんな国庫支出金や都支出金が出たり入ったりしているんですよ。そういった中で、立川市の本当の財政的な体力っていうのがどの程度あるのかということなかなか判断しにくいんですよ。決算を見てみても年度を超えた時点で国からもらった補助金とか支出金をコロナ関係ですけど、年度明けに戻していたりということで、なかなかこの立川市の本当の財政力というものをなかなか見極められない。見にくい。であるならば手堅く見積ると、やっぱり実質単年度収支なのかなと、これが令和3年度外部にいたものとして見られるその数値の中で、実際の収支という数字を見ると12億円の黒字の会計になっております。これまでであればそれを全て財調などに積み立てるということになっていたのかもしれないけれども、その12億円の範囲内であれば自由に使える、また継続的に行っていく、そういった予算として見積もることができるということで、小学校給食にまず書き出させていただきました。

なぜ、小学校かという中学校給食については、念願の中学校給食がこの9月から始まりましたのでそれはそれでちょっと我慢してくださいと。その上で小学校に関して私は元々自校方式がいいということ、4年前の選挙のときでは申し上げておりました。それは地域の防災拠点、また食育の問題、地場産野菜をつけやすい、あるいは以前あった共同調理場による立川市の責任ではないんだけど食中毒の問題があってリカバリーに時間かかったと、やはり調理施設というのは少し分散していた方がいいのではないかなという、そういった

思いもあって、いくつかの学校は既に耐震改修で改修をしているというところもありますので二重投資になるのではないかということもあって、新しく作る調理場は中学校だけで自校方式は残すということを私は4年前のときには申し上げておりました。

しかしながら4年が経過をして実際には、調理場も建ち、そしてこの9月からうちの息子も、自校式からセンター方式に変わった学校に通ってるんですけども、息子のクラスの評判はすこぶる悪い。美味しくないという話ですので、その学校給食では出てくるものはあんまり変わらないそうなんですよ、息子に聞いたら温かいのと冷たいのってそういう温かさの問題なのって、そうじゃないと。味付けが今までの小学校の自校方式の調理で作ったものと今のセンター方式のものでは味が違うんだというふうにご子供たちの中でもそういう話があります。是非ね、ちょっと議会の皆さんとも相談をしながらなんですけれども1回みんな給食食べてみようよみたいな、その上で、しっかり皆さんとも議論をしながら場合によってはね、子供たちにアンケートを取ってもいいのかなあとかっていうぐらいに思ったりもしています。これは実際に自分自身で食べてみないと、わからないのでそういった意味でまずはそこをやっていきたい。

次に中学校給食いつなんだという話なんですけれども、これについては立川市の財政力、実際に市長としてこの給食だけが全てではありませんので、他にもいろんな要望があります特に先ほど少子高齢社会でどうすんだっていうときに、ご高齢者の方々の移動手段の確保というものも大きな課題だと思ってるんです。そういった中では今、くるりんバス運行しておりますけれども、大変あの乗車率が多いところとそうでもないどちらかという空気運んでるんじゃないかというような路線もあります。この路線の見直し、そして本当に必要な部分、地域については今のような大きいバスではなくてコミュニーターと言われるような、少し小ぶりのバス等々も使って、やはり交通不便地域をなくしていくということにも多少お金を使っていかなくちゃいけないのかなと、高齢者の健康長寿のまち作りに資するような施策にも取り組んでいく必要があると思っております。そういった面では中学校給食については、いつというのがなかなかお答えができませんけれども、気持ちとしてはやりたいと思っております。気持ちとしてはやりたいと思っておりますけれども立川市の財政状況をよく見ながら優先順位をつけてということになりますのでできれば国や東京都で予算をつけて欲しいなっていうのが、これは市長としての思いです。